

**頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム
平成 26 年度採択事業にかかる事後評価結果**

整理番号	S2605
代表機関名	九州大学
主担当研究者所属部局	歯学研究院
関連研究分野	歯科医用工学・再生歯学
主担当研究者	西村 英紀
事業名	口腔から健康長寿を支えるプロジェクト推進に向けた研究拠点構築プログラム

I これまでの事業実施により得られた成果

(1) 人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・計画していた 11 名の派遣に対し、最終的に 300 日以上派遣した者が 9 名（助教 3 名＝392 日、328 日、315 日、その他（特別研究員 6 名＝302 日、440 日、397 日、364 日、324 日、355 日）となった。 ・計画していた 6 名の招へいに対し、最終的に 7 名の招へいとなった。 ・ペンシルバニア大学をハブとした、幅広いネットワークが構築されており、計画に基づいて派遣された若手研究者は高い評価を受けていることから、国際ネットワークの構築・強化がなされたと判断できる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

(2) 国際共同研究課題についての評価

評 点 4
コメント
<ul style="list-style-type: none"> ・重点プロジェクトの 1 つである「口腔健康科学」では、IgG4-RD の病態解明として CD4+SLAMF7+CTLs の関与、自然免疫に関わる TLRs のうち TLR7 の関与を明らかにし、また味覚と肥満関連の研究において、オルガノイド法を用いた再生実験、甘味受容機構の解明、レプチンとカンナビノイドの機能解析による知見が得られている。 ・もう一方のプロジェクト「組織の再生・再建科学」では乳歯幹細胞を用いた再生医療における成果、疾患における疾患特異的乳歯幹細胞の単離と発症メカニズムの解析エクソソームのマクロファージタイプの転換現象など、臨床応用にもつなげる成果を上げている。 ・若手研究者が筆頭著者になっているものを含め、共同研究の相手側となる海外の研究機関との国際共著論文は計 12 報あり、その大半は著名な国際雑誌であり高く評価出来る。 ・国際学会で発表している成果についても、今後論文に結実することが望まれる。 <p>以上のことから、期待される成果は十分達成していると評価できる。</p>

II 今後の展望

評 点 4
コメント

・若手研究者の多くが助教として採用されており、それ以外にも連携機関で研究を継続している若手研究者もいることから、今後も継続・発展が見込まれ、当該領域における国際研究ネットワークのハブとなることが期待できる。

以上のことから、今後の展望は高く評価できる。

総合的評価

評 点 4

コメント

・人的交流を通じた国際研究ネットワークの構築・強化に関しても歯学・口腔科学の研究として今後のテーマを定め、それに基づいてグローバル展開を図っており、国際共同研究課題に関しても実態がある共同研究を進めていることから、本プログラムの趣旨である国際ネットワークにアクセスするという観点では、評価できる。

・しかし、「口腔健康科学」と「組織の再生・再建研究」のそれぞれの相手側のレベルは非常に高く、今後、九州大学が世界を先導するには、更に独創性と先端性に富む取組が期待される。

以上のことから、総合的に高く評価できる

※評点に対する標語は下記の通り。

【I (1)、(2)】

4=十分達成している 3=概ね達成している 2=ある程度達成している 1=ほとんど達成していない

【II、総合的評価】

4=高く評価できる 3=概ね高く評価できる 2=ある程度評価できる 1=ほとんど評価できない